

グループ討議結果の整理（全体討議の進行のために）

討議結果の構造

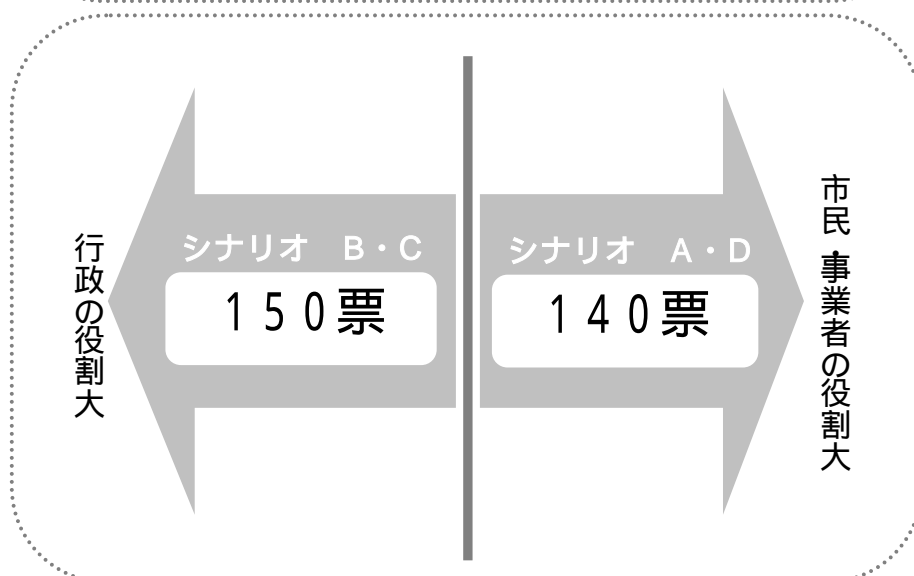
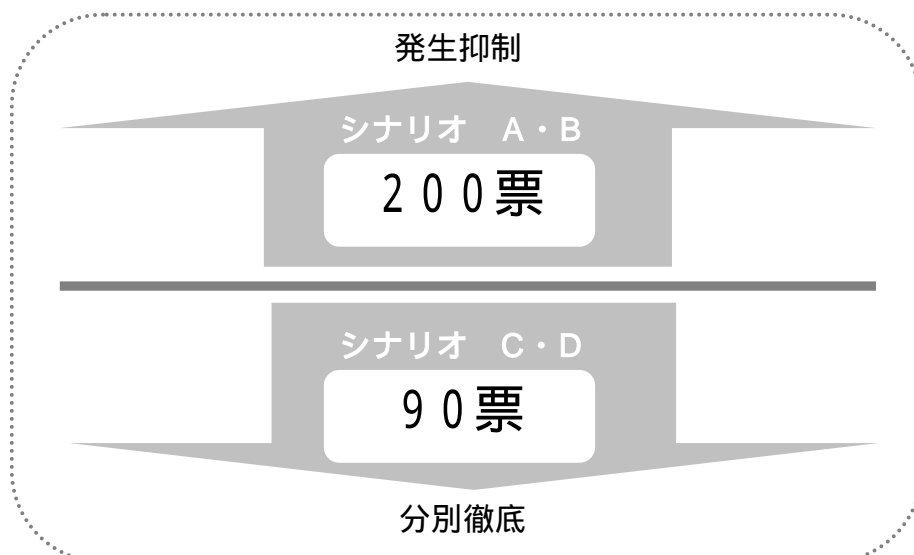
1、投票結果の振り返り

前回の投票結果では、シナリオ A が 103 票を集め、市民会議が提案する際の軸となるシナリオとして選択されました。

しかし、投票結果を別の角度から見たところ、シナリオの上（A・B）とシナリオの上（C・D）の投票数の違いは明らかですが、シナリオの右（A・D）とシナリオの左（B・C）の投票数は僅差となっています。

	A	B	C	D
票数	103	97	53	37
%	35.5	33.4	18.3	12.8

3月10日は会議市民の28名による投票でしたが、会議終了後の3月12日に一名の方から不在者投票をご返送いただいたため、29名分の投票結果となっています。



2、シナリオの内容と前回議論集約結果の対比

下表は、シナリオ A での扱い(取り組み・対策の方向)と、前回の意見分布結果(第五回：回答結果) 第五回グループ討議の結果(主な意見)、討議の結果に大して、本日の討議と今後の扱い(討議と「しみん提案」での扱い)を整理したものです。

シナリオ A での扱い		第五回 グループ討議 結果		第五回 グループ討議 結果		第五回 グループ討議 結果	
取り組み・対策の方向		第五回 回答結果		主な意見		討議での扱い	
分別区分が「ごみ」か「資源ごみ」かに関係なく不要なものがでないように、消費行動や生活様式を改める		1とても反対	0	(特になし)			
		2やや反対	0				
		3やや賛成	10				
		4とても賛成	15				
		5わからない	0				
価格が上がっても、環境に配慮された製品(リサイクルしやすいものなど)を、普及させる		1とても反対	0	(特になし)			
		2やや反対	2				
		3やや賛成	10				
		4とても賛成	13				
		5わからない	0				
発生抑制のための買い物・消費行動	飲料容器をリターナブルビンに統一する	1とても反対	0	・全ての容器をリターナブルに統一することは難しいと考える。		・実現に対して、懐疑的な意見が出ている。実現に向けた討議が必要。	
		2やや反対	1				
		3やや賛成	14				
		4とても賛成	7				
		5わからない	1				
	買い物をするとき、レジ袋が有料で販売されること	1とても反対	1	(特になし)			
		2やや反対	1				
		3やや賛成	7				
		4とても賛成	16				
5わからない		0					
買い物をするとき、ばら売り・量り売りのお店を使い、適量購入を進める	1とても反対	1	・必要性を感じない。 ・過剰包装が増える、人件費などのコストが増えるという懸念がある。		・少数ながらも反対意見や懸念が示されている。		
	2やや反対	0					
	3やや賛成	12					
	4とても賛成	12					
	5わからない	0					
生ごみ	生ごみは、「燃えるごみ」とするのではなくリサイクルするため、各家庭で分別する	1とても反対	0				
		2やや反対	2				
		3やや賛成	11				
		4とても賛成	12				
		5わからない	0				
	生ごみリサイクルをする場合には、家庭や地域でできることを優先して取り組む。	1とても反対	0	・一人世帯など実施することは難しい。 ・住居形態や家族人数などによって、堆肥化などの取組みが出来ない世帯もあるので、行政関与も必要ではないか。 ・事業系生ごみのリサイクルシステムに、家庭の生ごみを取り込むことができれば民間主導でも循環することが出来るのではないか。		・シナリオ修正に影響する意思が出された。 ・ <u>生ごみの処理のあり方について改めて議論して欲しい。</u>	
		2やや反対	6				
		3やや賛成	8				
		4とても賛成	10				
5わからない		0					
(シナリオ B における取扱) 生ごみリサイクルは、名古屋市全体でリサイクルのみちを作り、家庭や地域になるべく負担をかけない方法ですめること。	1とても反対	0	・名古屋市が主導となって取組みを進めるべきである。新たな新品目として市が収集することが望ましいのではないか。 ・名古屋市がリーダーとなり広報やPRに努め、発生源の対策を行う必要がある。 ・統一的に行う場合、効率的な利用(リサイクル・処理)方法を検討する必要がある。				
	2やや反対	4					
	3やや賛成	9					
	4とても賛成	10					
	5わからない	1					

取り組み・対策の方向		第五回 回答結果		主な意見	討議と「しみん提案」 での扱い
容器包装 以外のプ ラスチック 類	容器包装以外のプラスチック類は、「不燃ごみ」とするのではなく、リサイクルするため分別する。	1とても反対	0	<ul style="list-style-type: none"> 徹底的にリサイクルするべきである。 全てのプラスチックを一つの区分でリサイクルすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオ修正に影響する意思が出された。 <u>プラスチック類全般のリサイクルのあり方について改めて議論して欲しい。</u>
		2やや反対	0		
		3やや賛成	10		
		4とても賛成	15		
		5わからない	0		
	容器包装以外のプラスチック類は、焼却しエネルギーとして利用できるようにする(発電することなど)	1とても反対	1	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素の発生量が増えるので燃やすことについては反対。 これまで分別してきたものを燃やすことについては反対。 エネルギー回収を効率的に行う必要がある。 	
		2やや反対	4		
		3やや賛成	7		
		4とても賛成	11		
		5わからない	0		
ごみの有 料化	ごみを減らすため、ごみの有料化を進める。	1とても反対	1	<ul style="list-style-type: none"> 資源分別に加え、費用負担といった更なるルールを課すこと事によって、協力率はさがるのではないか(いい加減な人が増えるのではないか。) 意識啓発のためには、必要な施策である。 不法投棄対策などを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみ有料化について明確な反対は少数。 一方、有料化よりも指導の徹底をすべきの意見も多い。 <u>ごみ有料化について再検討してほしい。</u> 資源(リサイクル費用)は無料とすべき意見もある。
		2やや反対	4		
		3やや賛成	14		
		4とても賛成	2		
		5わからない	2		
	(シナリオ C・D における取扱)ごみを減らすため、ごみの有料化よりも、ごみ・資源の分別区分を守る指導の徹底を優先すること	1とても反対	0		
		2やや反対	6		
		3やや賛成	9		
		4とても賛成	9		
		5わからない	0		
取組主体	市民・NPO・事業者等がもっと主体的に資源化のルールや処理の仕組みづくりに参画し行動していく。	1とても反対	1	<ul style="list-style-type: none"> 市民が問題を自覚しなければ難しい。 民間主導では地域格差がでてくるのではないか。また、個人の間で分別格差が広がるのではないかと懸念する。 15年先には、市民、事業者、NPOの主体的な参画が必要。 ごみを出す人が主体となることが理想的。 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオ A は、市民・NPO・事業者等の主体性を重視。 一方、行政主導とするシナリオ B への指示も高い。 <u>取組の方針について、改めて議論して欲しい。</u> この点は、新たなリサイクルの進め方、環境教育のあり方、…参加型会議のあり方などに大きく影響する。
		2やや反対	4		
		3やや賛成	10		
		4とても賛成	10		
		5わからない	0		
	(シナリオ B における取扱)ごみの処理・資源化のルールなどは、行政が市民の意見を聞いて決め、市民はそれを理解し協力すること。	1とても反対	0	<ul style="list-style-type: none"> 行政主体で取組を進めていくべきだ。 持続的な機関として行政が責任をもって進めていく。 名古屋市のような大規模都市は、行政がリーダーシップを取るべき。 	
		2やや反対	3		
		3やや賛成	11		
		4とても賛成	10		
		5わからない	0		
焼却	埋立量を減らすため、燃えるごみは焼却すること。	1とても反対	0	<ul style="list-style-type: none"> 埋立量が増えるよりも、二酸化炭素削減のほうが重要だ。 埋立量は少なければ少ないほどよい。 埋立量がゼロになることは無いので、今後も埋立地を確保し、コストがかからない選択肢を選択するべきだ。 埋立地の確保の問題もあるが、その間に技術革新が起こることを期待。 エネルギー利用・資源化の技術の導入を望む。 焼却の問題や、予算の使い方は行政や議会が検討すべきテーマ。 	<ul style="list-style-type: none"> 焼却のあり方については、焼却 + 灰溶融への支持が多い。 一方で、焼却量を最大限減らすべき(灰溶融まですべきではない)という意見や、コストや二酸化炭素削減を重視する意味で焼却のみでよいという少数意見もある。 <u>焼却のあり方について、改めて議論して欲しい。</u>
		2やや反対	6		
		3やや賛成	12		
		4とても賛成	5		
		5わからない	1		
	環境影響を減らすため、リサイクルやごみ減量の推進によって焼却を可能な限り減らすこと。	1とても反対	1	<ul style="list-style-type: none"> 焼却や灰溶融を導入する前に、焼却量そのものを減らす取組(発生抑制)を徹底すべき。 	
		2やや反対	2		
		3やや賛成	9		
		4とても賛成	13		
		5わからない	0		
その他の項目(シナリオ A における取扱い)					
教育・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 市民・事業者等の協働で発生抑制(生活様式や価値観の見直し)を自主的に取組める人材の育成。 生活様式や価値観を見直す。 市民・事業者・行政等の協力体制で地域取組を展開。 			<ul style="list-style-type: none"> 教育・啓発に関しては、リサイクルの徹底も要素に入れたほうがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオの変更には影響しない。